

山 中 だ よ り

山中
キャッチ
フレーズ

してもらう
させられる人から
する人へ

枚方市立山田中学校 学校通信 第26号

発行 令和3年3月24日 校長 交久瀬善浩

◆◆修了式が終わりました◆◆

本日、令和2年度の修了式が終わりました。今年度1年を振り返っての皆さんの感想はどんなでしょうか。おそらくクラスでも1年間の反省や次年度の抱負などを考えたことと思います。

私も、徒然なるままに、この1年を振り返ってみたいと思います。



まずは、4月のスタートが新型コロナウイルス感染症による1回目の緊急事態宣言で実施できませんでした。1学期が始まってみなさんは登校できず、週2回だけ家庭学習の課題を受け取りに学校にわずかな時間登校するだけでした。ようやく6月になって分散登校で教室での授業が可能となりましたが、その段階でもクラスの全員が顔を合わすことすらできませんでした。6月後半になって、やっとのこと通常通りの登校で6時間授業が可能となりましたが、グループ学習や理科の実験、音楽の歌や器楽、体育の実技等々の制限がある中での授業でした。学校の行事もまともにできず、1学期に実施予定の体育祭は延期となりました。そして

授業時間を確保するために1学期が8月7日まで続き、2学期の開始が8月19日と、夏休みがわずかな期間になりました。8月にやってきたコロナ感染の第2波の影響で2学期が始まってからも制限は続き、10月1日に体育祭と文化祭を一緒にした学園祭を陸上競技場で辛うじて実施できたものの、それ以外の行事はすべて中止となり、クラブ活動もほぼすべての公式戦がなくなりました。校外学習にも行けませんでした。11月頃から始まったコロナの第3波はものすごい感染者数に達し、3学期には再び緊急事態宣言の発出となりました。ようやく緊急事態宣言は解除されたものの、ワクチンの接種はなかなか進まず、今、再び感染者が増加してきています。

この1年間、1・2年生のみなさんは本当にしんどい思いをしたと思います。これはしかし、皆さんだけでなく、世界中のすべての人が同じ思いを抱いているでしょう。コロナウィルスによって自分の命を失った人や回復しても後遺症が残った人、そして家族や大切な人を失った人は、さらに辛い思いをしていると思います。

(差別・いじめ・人権について)

そんな辛い思いをどこへ持って行けば良いのでしょうか。アメリカでは、白人による日本人を含むアジア系の人々に対するヘイトクライムや暴力等によって、多くの人々が傷つけられ、命をも奪われています。心を傷つけられた人は、間接的なものを含めるとほぼすべてと言っていいのではないのでしょうか。アメリカだけでなく、イギリスやロシア、EU諸国でも白人系による同様なヘイトクライムや暴力が発生しています。人種差別なのですが、こういう差別や偏見、大人のいじめ事象、あなたはどのように考えますか？



この問題、平和なときは人の心の中だけで存在し、外（他人）に対しては出てこないのですが、自分がしんどくなったり追い込まれたりすると頭を持ち上げてきて、自分より弱いもの、下に見ている人に対する差別やいじめの実際の行動になって出てくるのです。これに集団意識が加わると収拾がつかなくなります。これは日本の国内でもおこっていることです。人という生き物に共通したもののなのでしょうか…。だとすると人間とは悲しい生き物ですね…。他のどんな動物よりも劣っているかもしれない…。

しかし、そんな中であっても、それはいけないことだと自覚し、自分はそういうことをしないし、そういうことをしている人に対して抗議の声を上げていく人はたくさんいます。少なくとも差別やいじめに加担しない人の方がはるかに多いのです。人権意識が育っているところでは、差別やいじめをしない人がほとんどなのです。あなたはどうか？

大人の世界の差別や暴力・ヘイトクライムなどは、言ってみれば大人の世界で発生している大きな大きないじめと解釈してもよいでしょう。小さいいじめは、大人の世界でも日常的に発生しています。あなたのクラスでは、この1年間どうだったでしょうか。あなたの学年ではどうだったでしょうか。山田中学校ではどうだったでしょうか。少し考えてみてください。

(次年度を考える)

新型コロナの感染症は、4月以降もまだまだ続きます。おそらく次年度の1年間も同じような状況が続くと思われます。昨年3月頃は新型コロナの感染症なんてすぐに治まるだろう、5月頃には通常に戻っている、なんて楽観視していた自分の思考力のなさを大いに嘆いているのですが、ここまでくると楽観視はできません。新たな変異種も増えてくるでしょう。そのうち今あるワクチンが効かないタイプも登場すると思います。変異種が登場する前は、専門家でも変異種は感染力は上がっても、毒性が弱くなって致死率も下がるようなことを言っていました。実際に出てきた変異種は感染力も毒性も元種よりもかなり強く、致死率も高くなっていました。

悪い想像をすれば、次年度は今年度以上に大変なコロナ禍にみまわれるかもしれません。その状況の中で、学校はどうなるでしょう。あなたの生活はどうなるでしょう。あなたの家庭はどうなるでしょう。それを考慮しながら、あなたは次年度の学年をどうしようと考えますか。何を目標にしますか。

(未来を描くことからの目標を)

次年度の目標を考えるとき、今年度はこれができていなかった、こういう反省がある、だからこうしていくと考えるのが普通かもしれません。しかし昨年度からのコロナ禍により、過去の反省に基づいて次の目標を考えるだけでは、もう通用しないんだということがみなさんにもわかったと思います。

このコロナ感染症を経験して、世界は、これまでの常識やありきたりの視点では想像できないものへと急激に変化していくと思います。その変化をどう読み取るか、読み取れるか、によって、あなたの人生も大きく変化すると思います。

だから、4月からの目標を考えるとき、3月までの反省で考えるのではなく、このコロナ感染症がどうなるか、それによって自分の身の回りのことがどう変わっていくかということを目論じた上で、だから自分はこうしたい、自分はこうすべきだというように考えて、目標を設定してください。



特に3年生は、進路の決定に際して、この成績だからこの高校に行く。だからこの高校を受験するなんてことのないように。進路を考えるときの基本としては、まずは、自分が大人になった頃、世界はこうなっているのではないかと、こんな社会になっているのではないかと、人の仕事はこんな風になっているのではないかと、というようなことをしっかり自分で思い描くことです。次に、それを土台として、自分がしたいことやできることを考え、だから自分は将来こんなことができるように準備する必要がある、というように組み立てて、これから学ばべきことを自分でしっかりと把握してください。人に言われることに従うのではなく、自分自身の道を自分の足でしっかりと立って、自分の学びを進めてほしいと思います。そうすれば、あなたの学びは、

主体的学びとなり、知識だけを身につけたメッキのような学びではなく、本物のあなたの力となる学びとなるはず。少なくとも学びの本質が何であるか理解できるはず。それがわかれば、あなたの一生の力となるはず。

(未来予測と気づきと創造力)

世の中の先頭を走る人は、常に未来の読み取りが正確にできるだけでなく、その思い描いた社会の中に、さらに課題となることや問題点を見出し、その解決策を考え、その解決策を今の自分の目標にすることが出来る人です。未来の世界を想像し、その上に立って、だからその世界を自分はこう変えていくんだ、こういう世の中に作り変えてやるんだという夢(目標)を持てる人です。

あなたもそういう夢(目標)も持ってみませんか。私はみなさんにそういう夢を是非持つてほしいと思っています。

「現状を把握したうえで未来を描く力」「描いた世界の中の課題や問題点・不足点を見出す力」「その解決策を考える力」、この3つの力をまずは身につけましょう。自分の夢・目標は、思うだけで実現しなければ全く価値はありません。実現するためには、自分自身で行動することが何より重要だし、さらには、仲間との協調・協力もとても重要です。その仲間は、世界中のあらゆる人です。

まずは自分が行動し、相手を理解し、協調・協力し、そして自分の未来を実現していく。どうかあなたの人生においては、あなた自身が主人公となり、主体となり生きてほしいと思います。

山田中学校のキャッチフレーズ「してもらい させられる人から する人へ」、再配布しますから、よく読みこんで、次年度のあなたの目標を考えてください。

